

第3章 復元根拠資料

第1節 発掘成果の概要と復元整備

南側低地部の暫定整備に先立ち、平成26年度に池の痕跡の確認調査を行った。北側台地部では復元整備工事に伴い、平成28年度から令和5年度までの間に、計6回の発掘調査を実施した。北側台地部では、復元整備工事に伴う埋設物（建物基礎・上下水道・電気・排水施設・案内板等）の位置を確定することを目的として行われた。

建物外北側の敷地では、保存対象である付属屋の建物基礎や近衛文麿居住期に敷設された配管（土管・鉄管）が数多く確認されたほか、撤去可能な近年設置の塩化ビニール製の配管も確認されている。

そのため、埋設物を設置するルートについては、保存遺構を回避し、設置可能な場所を選定した結果、建物床下から別棟床下を経由し、西側の公共桟へと接続するルートを採用した。



図 3-1 発掘調査を実施した調査坑の位置（平成 28 年度～令和 5 年度）

(1) 敷地南側の低地部

① 池

萩外荘広縁から眺めることのできた池は、敷地南側の低地部に広がっていたとされる。その後埋め立てられ、区が平成26（2014）年に当敷地を取得した時点では駐車場になっていた。

池の痕跡を確認するよう有識者からの助言を受けたことから、平成26年10月に国庫補助金を活

用し発掘調査を実施した。調査では、敷地低地部の南寄りで池の痕跡が確認された（図3-2）。

昭和36（1961）年測量図と照合すると、位置がやや東へずれているものの、ほぼ同形状であった。東西約40m、南北約15mの規模であった。

池の北西部分では、張り出しと護岸と推定される石列が確認されているが、この張り出しは、後の池拡張工事に伴うもので、詳細は不明である。

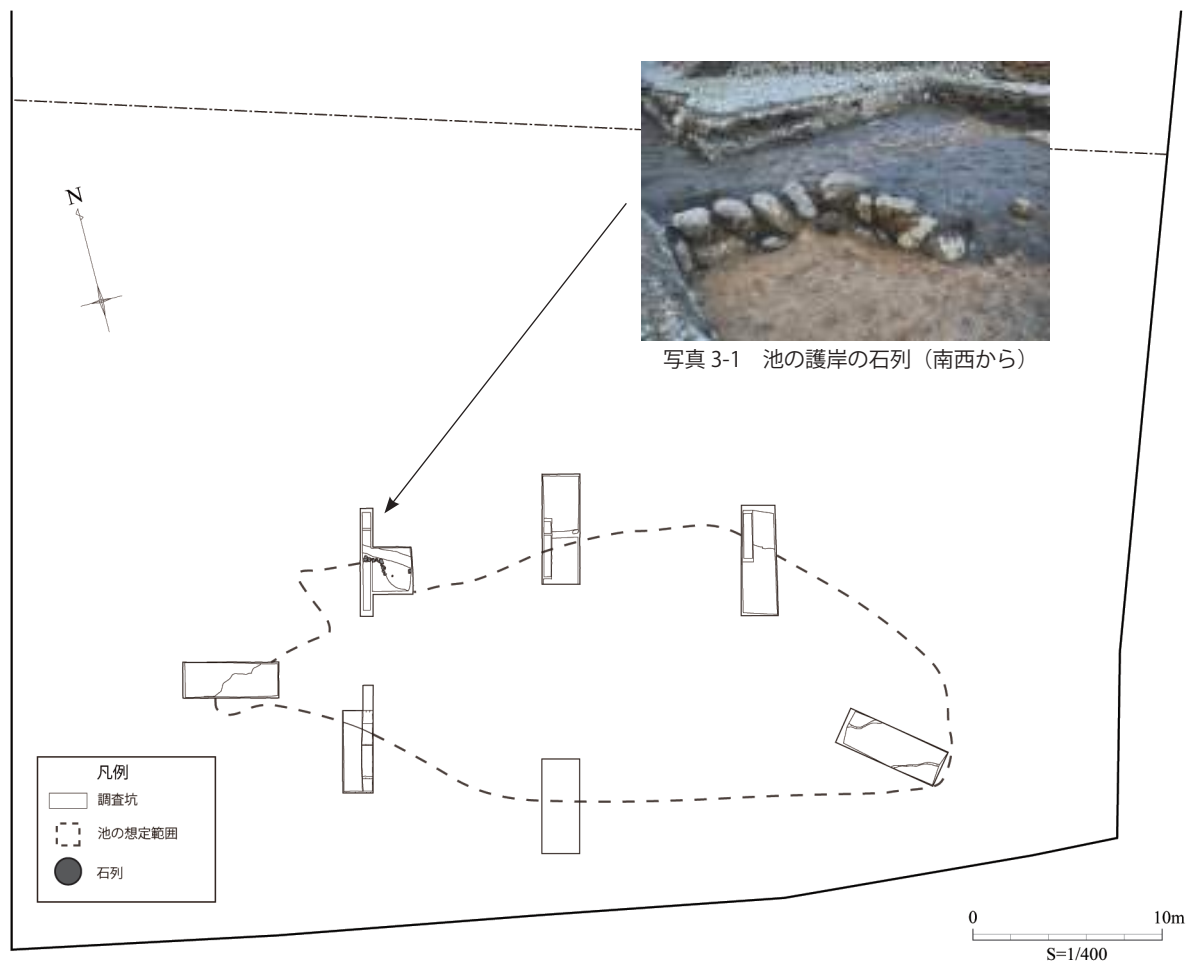


図 3-2 敷地南側の池跡

(2) 敷地北側の台地部

① 巣鴨棟の建物基礎およびその周辺

昭和35（1960）年に豊島区に移築された巣鴨棟を、萩窪に再移築・復元するにあたり、建物基礎の位置・残存状況および構造を明らかにすることを目的として、平成28年度と令和2年度に発掘調査を実施した。

巣鴨棟（客間・玄関等）に関連する建物基礎は、第2次調査（平成28年度）において、地中にその遺存が確認された。その基礎は一部に欠損が認められたものの、全体としては良好な状態で遺存していた（図3-3）。

また、創建時の建物図と照合した結果、基礎は南側玄関、「応接室」「次ノ間」「女中室」「来客用手洗」および「客間」の一部に相当するものであることが明らかとなった。

「玄関」は、昭和17～18（1942～1943）年頃に南側から東側へと変更されたが、その際に設けられた東側玄関の基礎についても、その残存が確認された。

来客用手洗は、昭和2（1927）年創建時平面図によると「応接室」西側に設置されていた。この位置に対応する建物基礎が発掘調査において確認されている。さらに、貯留槽部分の一部を掘削した結果、底面のある箱状の構造で、上部に配管跡が見られた。当時としては珍しい水洗式であった可能性が示唆された。

以上のような調査成果に基づき、豊島区から再移築された巣鴨棟建物は、発掘調査で発見された建物基礎を基盤としてその上に復元された。基礎が欠損していた箇所については、敷地内で保管されていた部材を再利用して、原位置で復元した。

玄関は南側玄関を復元対象としたため、東側玄関の基礎は保護措置を講じたうえで、建物東側の砂

利敷下に保存した。

また、発掘調査では建物周辺で他の構造物も発見されている。

創建当初は、正門である東門から、巣鴨棟の南側玄関へと向かう車回しが敷設されており、平成28年度と令和2年度の発掘調査で確認された。道を舗装する基本的な構造は、まず5～30cm程度的大型碎石を敷き詰め、その上に厚さ2～3cmのローム層を載せてならし、最後に細かな砂利を敷くというものである。この構造は、東門前から巣鴨棟南側の玄関付近まで、一貫して確認されている。

当初は配線等を敷設する予定であったが、車回しの範囲と構造が明らかとなったため、荻外荘東側及び南側玄関周辺に玉砂利を敷いて再現した。

このほか、北側付属屋、ボイラー室と思われるコンクリート製構造物、貯水槽、物置、小形住宅跡が発見されており、保護措置を講じたうえで埋め戻して保存している。

創建時の建物基礎の構造については、こぶし大の碎石（栗石）を敷設し、その上に高さ約40cmの無筋コンクリート製基礎を据え構築されていた。





写真 3-3 巢鴨棟の建物基礎（東から）



写真 3-5 来客用手洗（南西から）



写真 3-4 巢鴨棟の南側玄関（南から）



写真 3-6 南側玄関付近の車回し（西から）

② 正門石畳

荻外荘の創建当初は東門を正門としていたが、昭和13（1938）年5月頃に正門を西門へ変更した。その際に、東門を構成していた門柱、扉、袖壁は西側へ移設され、石畳が敷かれたと考えられる。

構築当初は、西側道路際まで石畳が敷かれていたと思われるが、復元工事の時点で、道路際の一部の範囲で石畳が欠損していた。この石畳が欠損していた場所で、石畳の基礎構造の調査を実施した（令和5年度Ⅰ期調査）。

基本的な構造としては、ほぼ平らに削られた地山の上に、コンクリート片や碎石、砂等が混在した土壌が約30cm堆積し、その上に厚さ約10～15cmの長方形の敷石が敷かれていた。敷石と敷石の間には、径約5～10mmの砂利を使用した洗い出しが施されていた。また、長年の利用により敷石のいくつかは沈下し、敷石と敷石の間の洗い出しはすり減った状態となっていた。

復元工事では、欠損部は当初の形に再現し、洗い出しがすり減った溝状部分は、当初の洗い出しの砂利の粒径に近いものを使用して、隙間を埋めることとした。



写真 3-7 石畳の基本的な構造（北から）



写真 3-8 石畳の洗い出し舗装

③ 斜面地

庭園整備工事に際して、斜面地では土留め構造物を設置し植樹を計画していたため、土層状況の把握が必要となった。そのため、平成28年度、令和3年度、令和5年度に発掘調査を実施した。

調査の結果、斜面地は1m以上の厚さで盛り土がされており、中央東寄りの地点で、入澤家・近衛文麿居住期の土留め遺構の残存が確認された。

これを踏まえ、土留め遺構は回避しながら、それ以外の範囲で庭園工事を進める方針とした。



写真 3-9 土留め遺構

④ 埋設配管および排水桝

建物周辺の敷地には、上下水道等の用途である土管、鉄管、排水桝、塩ビ管等が複雑に交差する形で埋設されていた。また、建物の床下にも、土管や鉄管が多数設置されていることが確認された。

これらの埋設配管は、近年に設置されたことが明らかな塩ビ管や排水桝は整備工事の際に撤去し、土管や鉄管は、現地で保存した。



写真 3-10 土管、鉄管、塩ビ管

⑤ 植樹・生垣・フェンス・雨水浸透桝等

復元整備工事に際しては、敷地西側および東側におけるフェンス等の設置、東門の整備、さらに建物周辺での浸透桝の設置を計画した。また、建物・車回し周辺では、現存する樹木を活かしつつ植樹を行う方針となった。

これらの施設・植栽の設置位置を確定するため、事前に発掘調査を実施した。

調査の結果、フェンス等の設置を予定していた敷地西側の一部からはコンクリート製基礎が、東門の道路際では旧東門に関連すると考えられるレンガ列の遺構が確認された。

また、建物際に設置を予定していた雨水浸透桝の位置においては、埋設土管やコンクリートのたたきが一部で確認された。

そして、高木・中木・低木の植栽を予定していた範囲では、北側付属屋の基礎や車回しの遺構等が確認されている。

これらの調査成果を踏まえ、発見された遺構を回避しつつ、それ以外の範囲において工事および植樹を実施する方針とした。



写真 3-11 北側付属屋の建物基礎



写真 3-12 レンガ列

第2節 古写真

(1) 外観



写真 3-13 外観（昭和2年頃）個人蔵



写真 3-14 外観（昭和2年頃）日本建築学会建築博物館蔵



写真 3-15 外観（昭和 12 年 11 月 27 日）朝日新聞社提供

著作権の都合により削除



写真 3-17 外観（昭和 20 年以降の南側外観）個人蔵



写真 3-18 広縁外観（昭和 2 年頃）個人蔵



写真 3-19 広緑外観（昭和 15 年 12 月 1 日）朝日新聞社提供



写真 3-20 玄関外観（昭和 2 年頃）個人蔵



写真 3-21 玄関外観（昭和 15 年 7 月 16 日）朝日新聞社提供



写真 3-22 玄関（昭和 16 年 7 月 28 日） 毎日新聞社提供

(2) 玄関内観



写真 3-23 玄関（昭和 2 年頃）個人蔵



写真 3-24 玄関（昭和 14 年 8 月 28 日）毎日新聞社提供



写真 3-25 玄関（昭和 16 年 7 月 28 日）毎日新聞社提供



写真 3-26 玄関（昭和 15 年 11 月 10 日）朝日新聞社提供

(3) 応接室



写真 3-27 応接室（昭和 2 年頃）個人蔵



写真 3-28 応接室（昭和 2 年頃）個人蔵



写真 3-29 応接室（昭和 2 年頃）日本建築学会建築博物館蔵



写真 3-30 応接室天井画（昭和 2 年頃）個人蔵

(4) 客間



写真 3-31 客間（昭和 2 年頃）個人蔵



写真 3-32 客間（昭和 15 年 7 月 19 日）朝日新聞社提供

(5) 広縁



写真 3-33 広縁天井（昭和2年頃）個人蔵



写真 3-34 広縁（読売新聞 昭和 13 年 4 月 10 日付）

(6) 食堂



写真 3-35 食堂（昭和 2 年頃）個人蔵



写真 3-36 食堂（昭和 2 年頃）日本建築学会建築博物館蔵

(7) 書齋



写真 3-37 書齋（昭和 2 年頃）個人蔵



写真 3-38 書齋（昭和 2 年頃）個人蔵

(8) 寝室



写真 3-39 寝室（昭和 2 年頃）日本建築学会建築博物館蔵

(9) 居間



写真 3-40 居間（昭和 2 年頃）日本建築学会建築博物館蔵



写真 3-41 居間（昭和 2 年頃）個人蔵

(10) 茶ノ間



写真 3-42 茶ノ間（昭和 2 年頃）日本建築学会建築博物館蔵

(11) 正門

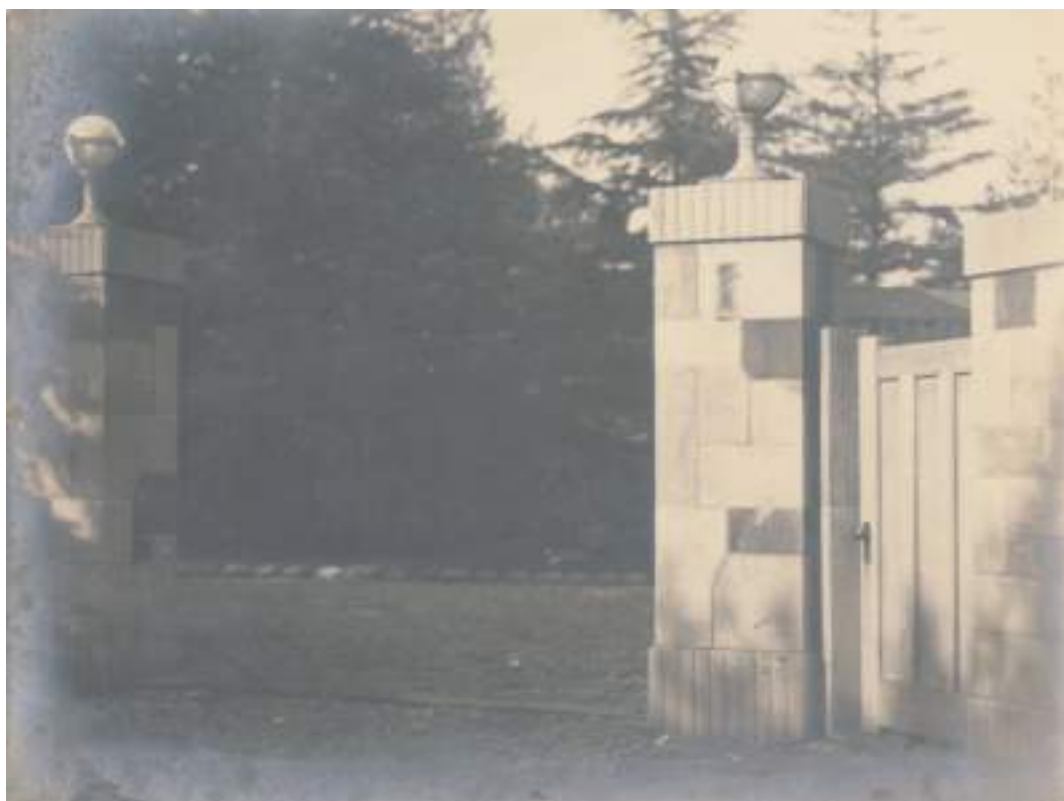


写真 3-43 西側に移築される前の正門（昭和 2 年頃）個人蔵

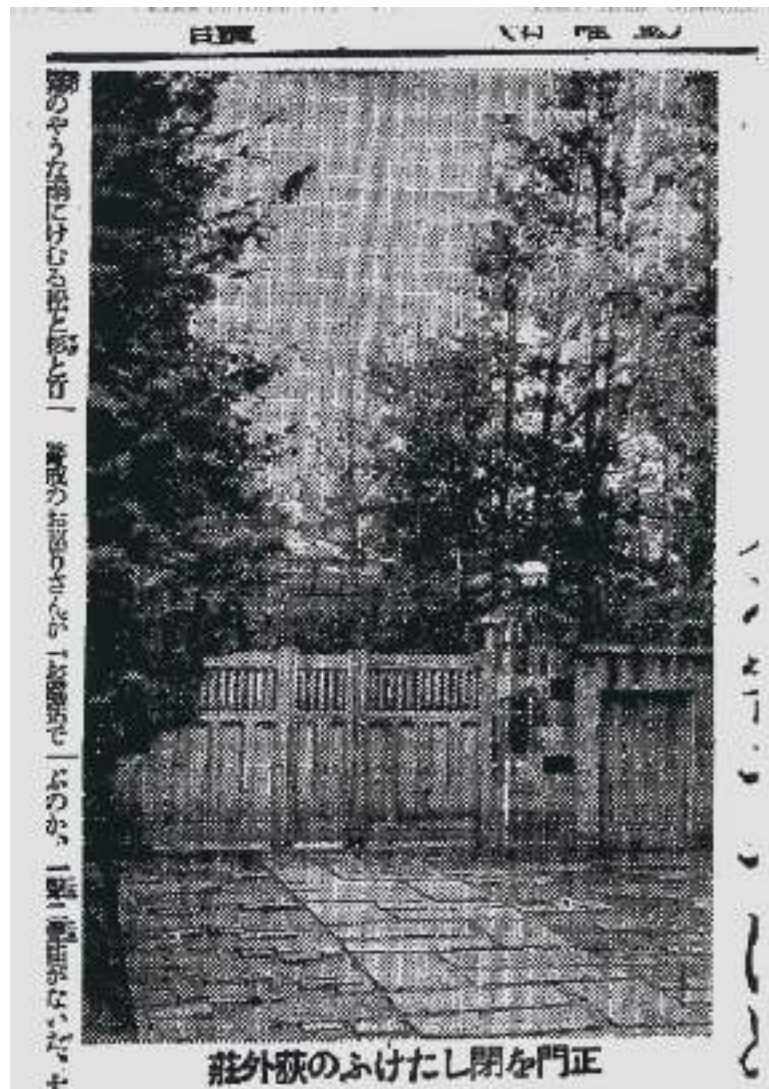


写真 3-44 正門（読売新聞 昭和 16 年 7 月 18 日付）

(12) 南側庭園



写真 3-45 南側庭園（昭和 16 年 6 月 25 日）個人蔵

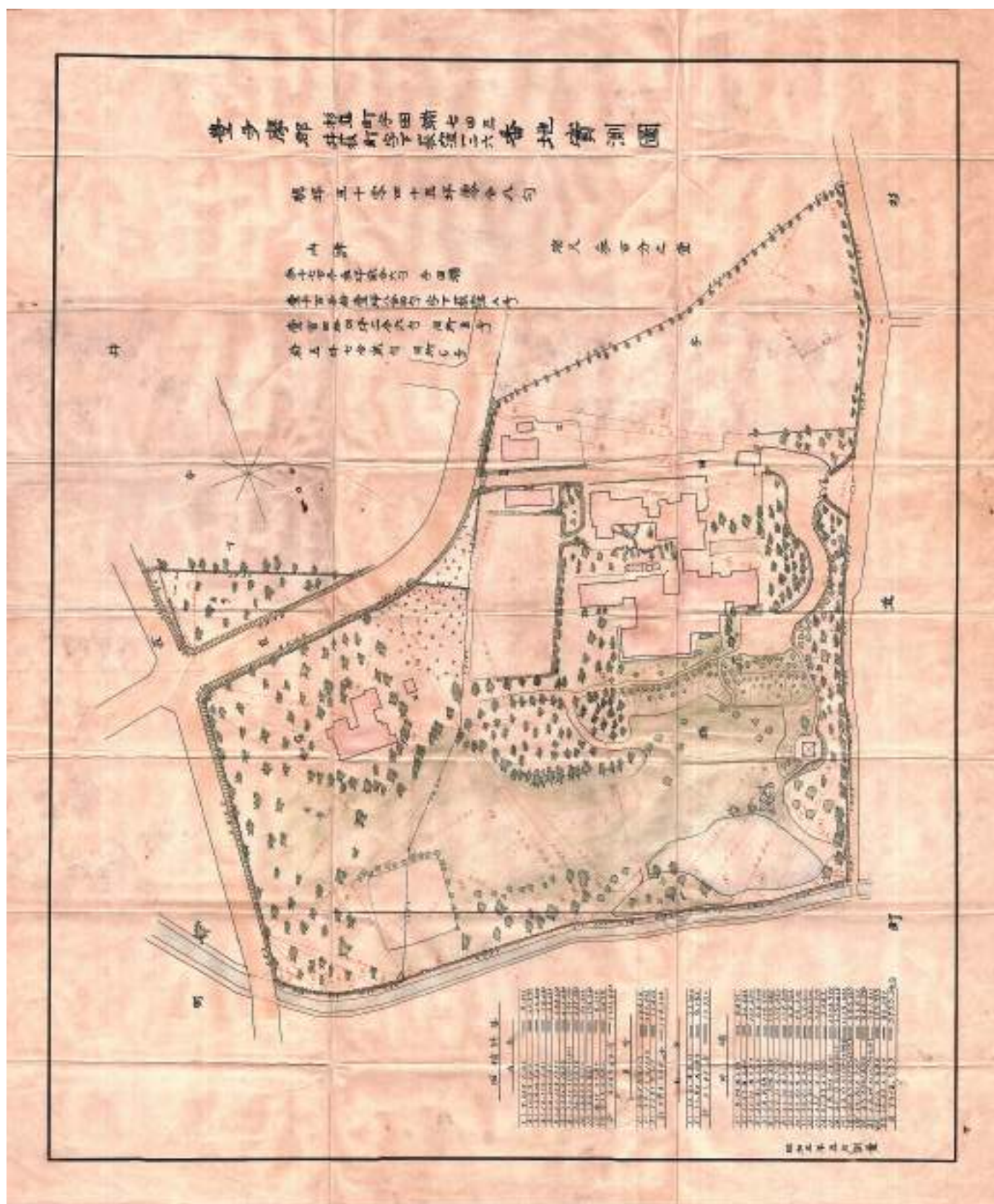
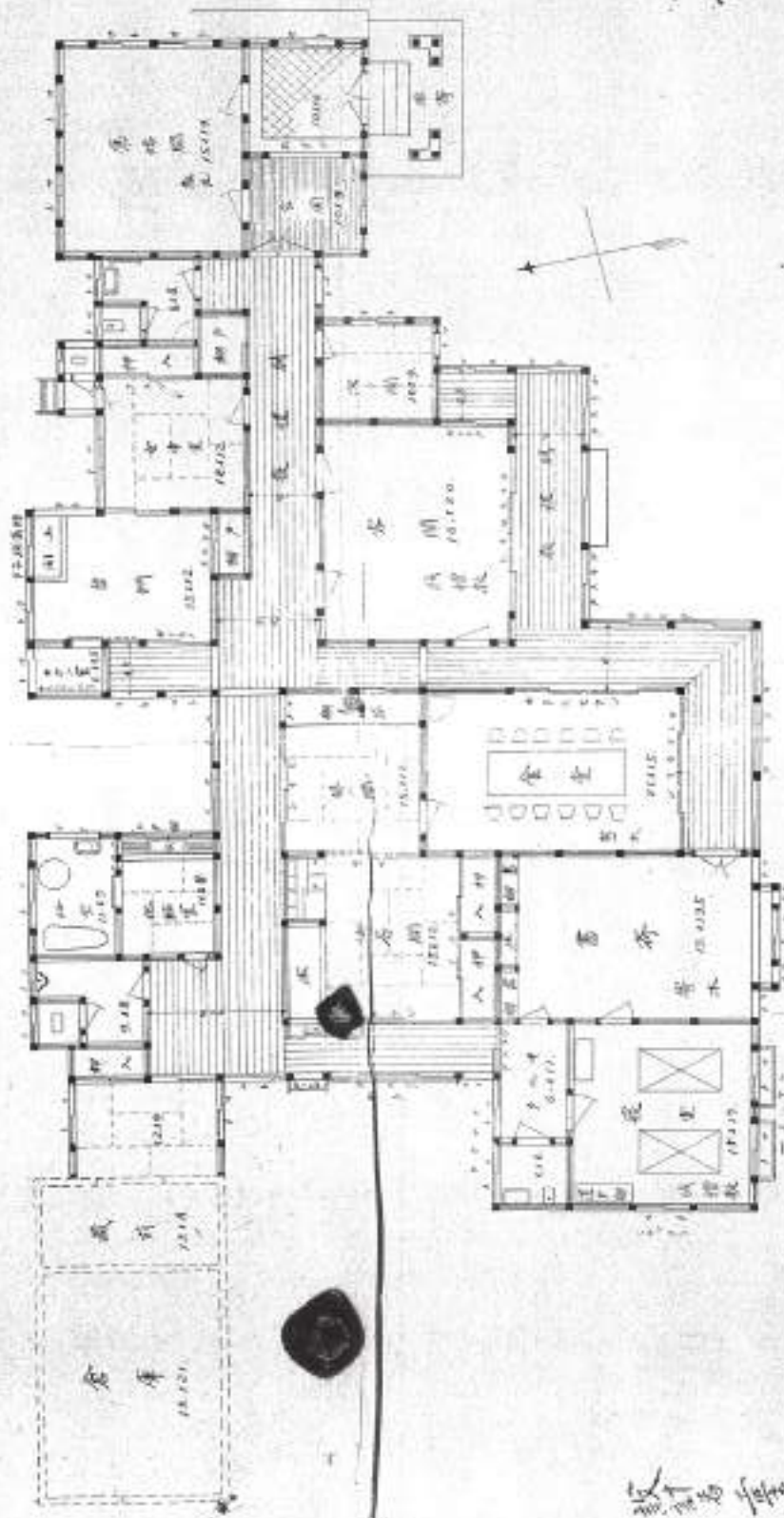


図 3-4 昭和 5 年敷地測量図 個人蔵

住宅平面圖

縮尺百喙一



設計者 豊田 俊一

図 3-5 昭和 2 年創建時平面図 杉並区教育委員会蔵

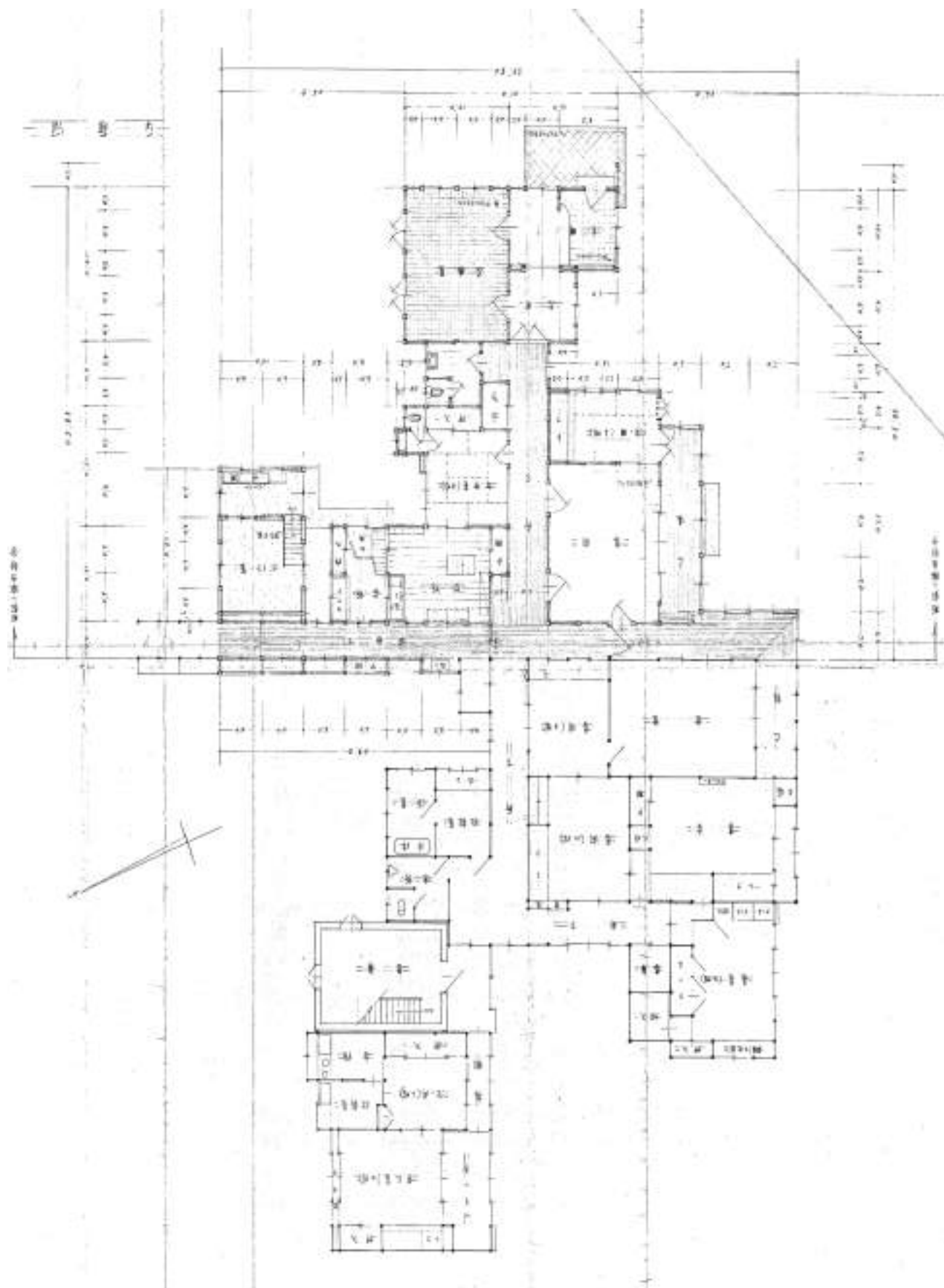


图 3-6 昭和 35 年平面图 杉並区教育委員会蔵